

第3回京都市山科地域公共交通会議 摘録

日 時：令和4年6月28日（火）午前10時～正午
場 所：京都市山科区役所 2階 大会議室
出席者：別紙出席者名簿のとおり

1 開会

○ 高橋会長（近畿大学）挨拶

本日の会議に先立ち、6月17日にフィールドワークを行い「鏡山循環バス」、「くるり山科」、「小金塚地域循環バス」、「京阪バス48号経路」に乗車し、状況を拝見した。いろいろとお話伺い、沿線住民の方々が真摯に利用促進に向けて取り組まれていることがよく分かった。こうしたことを念頭に置いて本日の会議の進行を行いたいと思うので、引き続き御協力をお願いしたい。

2 学識経験者（井上委員）による講演

「地域公共交通計画の策定と地域公共交通会議の役割」

○ 大路部長（京都市都市計画局歩くまち京都推進室）講演の趣旨説明

交通事業者の経営環境はかつてない程、厳しい状況にある。こうした中で、地域の足を維持確保し、持続可能なものとしていくため「地域公共交通計画」を策定することとし、本年4月に協議会を設置した。

山科地域をはじめとする「地域公共交通会議」がどのような役割を担うのか、また今後公共交通をどのように維持確保していけばよいのか、改めて皆様と共有し、今後の議論・取組につなげたいという思いで、井上委員に講演を依頼したものである。

○ 井上委員（龍谷大学）

（資料2に基づき、講演）

○ 高橋会長（近畿大学）

井上委員から、地域における利用促進の取組が区全体に広がり、公共交通の利用者増加につなげる「山科区モデル」の説明があった。

この地域公共交通会議における議論が地域公共交通計画にも反映されるということで、関係性が御理解いただけたのではないかと思います。

3 議題

(1) 「京都市地域公共交通計画」の策定と協議会の設置について

(2) 令和4年度のスケジュール（案）について

○ 事務局（関連する議題のため、続けて説明）

（資料3、資料4に基づき、説明）

(3) フィールドワークの実施について（報告）

○ 事務局

（資料 5 に基づき、説明）

(4) 山科地域における地域公共交通の取組について

<交通事業者からの報告>

○ 橋野委員（京阪バス）

（資料 6 に基づき、説明）

新型コロナウイルスの影響で、バス事業の運送収入は 2019 年度と比較すると、2020 年度は△36 億円、2021 年度は△29 億円と大きく減少しており、会社が存続できるかどうかの瀬戸際に立っている。京都市においては、敬老乗車証の交付金が一定あり減便の規模が小さいが、今年の 3 月には大阪の事業所を一つ閉鎖した。地域には御不便をお掛けすることとなるが、そこまでせざるを得ない状況に追い込まれている。

○ 児玉委員（京都市交通局）

（資料 7 に基づき、説明）

経費削減、増収増客などの取組を進め、市バス・地下鉄ともに経営改善を果たしてきたが、新型コロナウイルスの影響により、令和 3 年度も令和 2 年度に引き続き、お客様数及び運賃収入が大幅に減少しており、2 年間で△270 億円の減収と極めて厳しい経営状況である。一人でも多くの御利用をお願いしたい。

<小金塚地域循環バスの状況>

○ 事務局

（資料 8 に基づき、説明）

○ 高橋会長（近畿大学）

実際に運営される中での御苦勞や気付き等をお聞かせいただきたい。

○ 玉木委員（小金塚自治連合会）

小金塚地域循環バスは、運転スタッフ、添乗スタッフ、管理スタッフ等、延べ 93 名（登録人数は 78 名）で運営を行っているが、平均年齢 70 歳以上と大半が高齢者で支えている状況である。また、運転事故防止の観点から、運転は 75 歳までの方に限定しているが、70 歳前後の方が多く、数年後には運転者の確保が難しくなると考えている。

登録人数は 78 名といっても、いつでも活動可能な方は 12 名のみのうえ、ボランティアとして活動していただいているため、シフト作成や変更の対応も負担が大きい。ダイヤごとの利用実績も把握している（午前 11 時頃までは山科駅に向かう人が多いが、それ以降は小金塚地域に戻ってくる人が多い。午後は山科駅に向かう人は少ない。）ので、実情に即したダイヤ改正を考えている。

京都市に対して以下の3点をお願いしたい。

- ① 来年度は燃料費の補助がもらえないと聞いているが、地域は急な坂道で低速で走行しているため、燃料費が想定の1.5倍かかってしまう。現行の登録料では賄えない見込みであり、制度の見直しをお願いする。
- ② 炎天下や雨天時にバス停で待機するスタッフの業務環境が過酷であるため、屋根を設置するなどの改善をお願いする。
- ③ ボランティアスタッフに報酬を出せるような方法を検討してほしい。

＜山科地域における利用促進の取組＞

○ 事務局

(資料9に基づき、説明)

○ 高橋会長（近畿大学）

くるり山科の取組について、補足等をお聞かせいただきたい。

○ 雲林院委員（山階南学区自治連合会）

くるり山科を地域でも喜んで利用しているが、道が狭いため、大型バスが運行できず、車内が混んでいる。道路環境を含めて、今後の対応を検討してほしい。高齢者（敬老乗車証）の利用が多く、若い人（現金での乗車）の利用を増やそうと呼びかけているが、すぐには進まない。できるところから取り組んでいきたい。

○ 中嶋委員（西野学区自治連合会）

6月17日のフィールドワークでも、くるり山科は1便あたり36名と多くの利用があることを確認できた。小型バスのため車内は混雑しており、乗客の多くが高齢者であることから、運行中の事故が心配である。増便することが一番の解決策だと考える。敬老乗車証の交付金が京阪バスにどれだけ入っているのか、またコロナの影響で減っているのか、状況を教えてほしい。

24年振りに、市バスが山科地域に戻ってきたことは画期的で喜ばしい。災害に備えてということだが、今後、利用増に取り組んでいきたいので、長い目でみてほしい。

○ 高橋会長（近畿大学）

鏡山循環バスの取組について、補足等をお聞かせいただきたい。

○ 岩崎委員（鏡山学区自治連合会）

鏡山循環バスを「生活バス」と呼んでおり、地域の生活になくてはならないものである。利用者は多いが、ほぼ敬老乗車証の利用者で、現金乗車は1便に1～2人である。15時30分が最終便では早すぎる。利便性の向上、増便を一日も早く実現してほしい。増便に向けて様々な取組を行ってきたが、方策が尽きてきた。山科地域の公共交通の課題について、市はまともな考え方をもって取

り組んでもらいたい。

(5) その他

○ 橋野委員（京阪バス）

まず、地域の皆様の利用促進に向けた御尽力に感謝申し上げる。増便の御要望に対して、なかなかお応えできず大変心苦しい状況であるが、今後も増便を一切する気がない訳ではないことを御理解いただきたい。

弊社から3点を申し上げる。

- ① 敬老乗車証制度の見直しがされると聞いている。利用者が減少すると現行の輸送（サービスレベル）を維持できないという課題に直面する。制度が今後どうなるか、こうした会議体でも情報共有いただきたい。
- ② いわゆる「危険なバス停」について、国の指導に従い改善に取り組んでいる。京阪バス全営業エリアでは2百数十箇所が位置付けられている。山科営業所管内では37箇所が該当するが、迅速な対応が求められる「A判定」となっていた「南大塚（南行）」は移設が完了し、「畑町（西行／宇治市内）」も移設の目途がついたところである。他のバス停についても努力をしているが、実際にバス停を移すとなると、各関係者との調整、工事費の負担等の大きな負担もある。当社として取組は進めていくが、バス停設置箇所の確保など改善が難しい箇所について、地域の皆様の協力をお願いしたい。
- ③ 山科地域は道路幅が狭い区間が多い。一例を挙げると旧奈良街道の国道1号線の手前（国道大塚交差点～新幹線ガード下の区間）において、地域の要望を受け、歩道のない道路上に安全対策としてポールを設置された。安全対策の必要性も認識しているが、バス同士の離合が難しくなり遅延が生じるなど、運行に支障が生じている。個別に課題がある箇所については、このような会議で議論させていただきたい。

○ 高橋会長（近畿大学）

御意見等ございましたら、御発言をお願いする。

○ 酒井委員（山科区自治連合会連絡協議会会長会 副代表）

小金塚地域循環バスについては、地域がよく頑張って運営している。しかし、70歳を超える高齢者が運転スタッフを務めることは、高齢者の免許返納を推奨する時代に逆行している。運転者は、プロのドライバーを京都市もしくは京阪バスが用意すべきである。この件については早急に解決していただきたい。

○ 大岸委員（京都市都市計画局歩くまち京都推進室）

今回、山科地域の公共交通を取り巻く現状について共有できたと思う。交通事業者におかれては、厳しい経営状況の中、運行維持されていることに敬意を表す。また、地域においては、利用促進の取組を熱心に継続されていることに感謝申し上げる。山科地域の交通網がどうあるべきか、どう支えていくかということについて、エリアごとの課題や特性を踏まえながら、山科区全体につ

いて考える必要があり、今後皆様と議論してまいりたい。

○ 井上委員（龍谷大学）

本日意見の出た課題についてはすぐに解決できるものではないが、この間、山科地域においては熱心なモビリティ・マネジメントの取組によって、バス路線が維持・確保されてきた。

この地域の取組が「山科モデル」として、区全体や京都市全体へと他の地域に広がることを期待する。今回、高齢者の方の課題をお聞きしたが、子育て世代や大学生等の意見も聞かせていただきたい。

○ 高橋会長（近畿大学）

本日は多くの議題があったが、活発に御意見、御議論いただけたことに感謝申し上げます。対面で開催することで地域の実情等、様々な話を伺うことができた。議論する時間が十分に取れなかったので、今後の会議運営に活かしたい。

引き続き、積極的に御意見をいただくようお願い申し上げます。

それでは、進行を事務局にお返しする。

4 閉会

○ 事務局

今年度内に第4回会議の開催を考えている。

具体的な日程は、改めてお知らせする。